

医療的ケア児どう支援

県コロナ 勉強会 就園・就学の実例報告

呼吸や栄養、排せつ管理など日常的な医療行為が不可欠な医療的ケア児の就園・就学をテーマとした勉強会が2月27日、オンラインで開かれた。保育所や学校、行政などの5人が県内の実例を報告。支援者ら約80人が受講した。県医療的ケア児支援センター「コロナソン」（秋田市）の主催。

講師のうち、にしの杜^{もり}保育園（横手市）の看護師、高階千佳さんらは23年に入園した導尿の医療的ケアを必要とする園児の実例を報告。入園前は同市のガイドラインに沿って保健師や市の担当者らと連携し準備を進めた。家族との

呼吸や栄養、排せつ管理など日常的な医療行為が不可欠な医療的ケア児の就園・就学をテーマとした勉強会が2月27日、オンラインで開かれた。保育所や学校、行政などの5人が県内の実例を報告。支援者ら約80人が受講した。県医療的ケア児支援センター「コロナソン」（秋田市）の主催。



医療的ケア児支援の実例を報告した勉強会

限られた面談時間では病状や発達に関わる情報共有に課題があったとし、「命に関わる行為があるからこそ、医療面の情報共有はスムーズである方がいい」と話した。

職員が連携して在園時間の延長にも対応し、園児は心身ともに成長。母親の職場復帰を支えた。家族に寄り添い、安心できる保育の提供に注力したとし、「今後は家族が望む形の就学につなげられるよう、関係機関とのより深いつながりが大切になる」とした。

（今井正一）